

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年8月2日

【評価実施概要】

事業所番号	2795900014
法人名	有限会社 のどか
事業所名	グループホームのどか住之江
所在地	大阪市住之江区北島2丁目2-8 (電話) 06-6115-2824
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成19年7月23日

【情報提供票より】(平成 19年 7月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 1月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	22人	常勤 5人, 非常勤 17人, 常勤換算	4.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	32,000円	
敷 金	④ (294,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	④ (円)	有りの場合 償却の有無	④ / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100円			

(4) 利用者の概要 (平成 19年 7月 10日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	8名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80歳	最低	60歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小池外科、小林デンタルクリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

営利法人が運営する今年開設したグループホームで、併せて3つのグループホームを運営しています。病院と介護老人保健施設、グループホームを運営する医療法人とも連携しています。理念として「私共は、いつもそばにいて目配り・手配り・心配りの3配りの優しい気持ちで、気軽にお互いが挨拶を交わせる生活の場を作り、日常生活の中で常に、五感を刺激し、生きていることの楽しさに共感し合い一日が笑顔で始まり、笑顔で終わり地域社会の一員であると感じていただき安全で安心のできる環境を作ります」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らし続けることを支えていくことを目指しています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。協力病院の医師と看護師のサポートが利用者と家族に安心感を与えています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 今回は初回の外部評価です。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者と一部の職員で行われましたが、運営者、管理者は自己評価を実施する意義を理解し、職員全員による現状の問題点の理解と改善案の立案を行い、サービスの具体的な改善に取り組むことが求められます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 6月には初めての運営推進会議を開くことができ、今後2ヶ月毎に実施する予定です。今回は地域包括支援センターの担当者、地域の住民、家族のみの参加でしたが、ホームが地域において役割を分担し、貢献をしたり、地域からの協力を得る為に運営推進会議をより意義深く充実した会議にする必要があります。今後行政の担当者や地域の関係者を多く招請することが望まれます。会議では運営状況や生活ぶり、課題について報告し、地域との交流への協力を要請しています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族には毎月、利用者個人の健康状態、介護の記録、介護する項目、行事予定等について、生活情報を送付しています。併せて毎月「のどか」便りに行事やトピックス、写真をのせて送付しています。預かり金の金銭管理については収支と残高管理をして定期的に家族に報告し家族の確認の日付と署名を貰う準備をしています。家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また、ご意見箱入れを備え付け、申し入れのあった苦情については対応の記録をとり運営に反映させています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームが新立地に開設されてから約7ヶ月とまだ日も浅く、地域との付き合いはこれからの課題となっています。5月の近隣公園でのお花見の折には踊りのボランティアに参加してもらい一緒に食事をしています。今後運営推進会議での地域との交流の要請やホームの役割提供の申し出等を通じて状況の改善を図ることが求められます。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は運営理念として「私共は、いつもそばにいて目配り・手配り・心配りの3配りの優しい気持ちで、気軽にお互いが挨拶を交わせる生活の場を作り、日常生活の中で常に、五感を刺激し、生きていることの楽しさに共感し合い一日は笑顔で始まり、笑顔で終わり地域社会の一員であると感じていただき安全で安心のできる環境を作ります」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らし続けることを支えていくことを目指しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化してホーム内に掲示しています。毎朝のミーティングで唱和し、管理者と職員は理念を共有するべく話し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	ホームが新立地に開設されてから約7ヶ月とまだ日も浅く地域との付き合いはこれからの課題となっています。5月の近隣の公園でのお花見の折に踊りのボランティアに参加してもらい一緒に食事をしています。	○	運営推進会議での地域との交流の要請やホームの役割提供の申し出等を通じて状況の改善を図ることが求められます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者と一部の職員で行われ、職員全員の研修による取り組みは不十分で会議録も残されていません。	○	運営者、管理者、職員は自己評価を実施する意義を理解し、職員全員による現状の問題点の理解と改善方策の立案を行い、サービスの具体的な改善に取り組むことが求められます。
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月にはじめての運営推進会議を開くことができ、今後2ヶ月毎に実施する予定です。今回は地域包括支援センターの担当者、地域の住民、家族のみの参加でしたが、次回は行政、民生委員、町会長にも参加してもらう予定です。会議では運営状況や生活ぶり、課題について報告し、地域との交流への協力を要請しています。ホームが地域において役割を分担し、貢献をしたり、地域からの協力を得る為に運営推進会議をより意義深く充実した会議にする必要があります。今後行政の担当者や地域の関係者を多く招請することが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設間もないこともあり市の担当者とは交流ができていません。	○	市の行事に参加したり、ホームに招請したりして行政の理解を得る努力が求められます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月、利用者個人の体重やバイタルなどの健康状態、食事や入浴、排泄、睡眠などの介護の記録、介護する援助の項目、行事予定等についての生活情報を送付しています。併せて毎月「のどか」便りに行事やトピックス、写真をのせて送付しています。預かり金の金銭管理については収支と残高管理をしています。定期的に家族に報告したり、家族の確認の日付と署名を貰っていません。	○	預り金の収支と残高について定期的に家族に報告し、確認をした日付と署名押印が求められます。
8	15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また、今まで苦情はありませんが、苦情箱を備え付け申し入れがあればすぐに対応する準備ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	半年という短期間でパート職員の離職率が高く、多くの退職者が出ています。新人の採用と全職員の努力で比較的短期間で問題の解消をはかることができました。 職員が異動することで利用者への影響の大きさを理解し、今後異動を必要最小限に抑える努力が望まれます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は積極的に行われていますが、開設直後ということもあり、受講者は常勤の幹部職員が中心になっています。認知症や感染症、緊急対応法のテーマについても学んでいます。 職員を段階的に育成するために研修するテーマや受講者について計画的に研修を実施することが望まれます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム業界団体や地域の同業者との交流は未だできていません。	○	グループホーム業界団体や地域の同業者との相互の交流・研修会に参加しサービスの質の向上を目指し取り組むことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の家庭訪問やホームの見学を通じて馴染みの関係を作り、家族や利用者の不安を取り除き安心して入居しサービスを受けられるように努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	利用者が不安を持ち孤立することなく日々の生活を送れるよう、それぞれが得意なことや仕事を持ち、ホーム内で役割を持って生き活きと活躍できるよう支援しています。職員の対応の工夫により帰宅願望の強い利用者がテーブル拭きや食器拭きを率先してやるようになったり、怒りっぽい利用者が朝郵便受けから新聞を取り各フロアーに配るようになったり、何事にも消極的であった利用者が職員に隠し味の付け方を教えたりする等、利用者が生き活きと生活を楽しむようになってい		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者は家族に依頼してセンター方式の各情報シートに記入してもらい、まとめてアセスメントを完成させ、思いや意向、生活歴の把握をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者はセンター方式の情報シートに書かれた各利用者の情報と実際の利用者の暮らしの状況や心身の状況からアセスメントを行い、医師や看護師、入居前のケアマネジャーの意見、利用者と家族の意向・願いを反映した介護計画を作成し、カンファレンスを経て完成させ、家族の同意を得ています。利用者の生活や活動の目標を達成するための援助内容の実施について項目毎にモニタリングを行い、介護計画の見直しにつなげています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には6ヶ月毎に、状態の変化がある時はその都度見直しています。見直しにあたっては利用者の現在の状況、医師の意見、アセスメント表、モニタリング記録、カンファレンス記録をもとに見直し、家族の了解を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	協力体制のとれた病院との連 携で、利用者の状態に必要な 看護指導を受けています。地 域のボランティアも受け入れ 始めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られた、かか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用者の希望があれば以前か らのかかりつけ医師（医療機 関）で引き続き医療が受けら れるようにしています。協力病 院と連携し夜間や急変時の対 応についての体制整備をして います。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段 階から本人や家族等ならびに かかりつけ医等と繰り返し話し 合い、全員で方針を共有して いる	現在対象になる利用者はいま せんが、将来利用者が重度化 したり、終末期を迎えた場合 のホームとしての対応方針は 決められており、希望がでれ ば家族と話し合いながら対応 していきます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。利用者には笑顔が見られ落ち着いた様子で過ごしています。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと好きなことをしながら暮らせるよう支えています。職員が制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。数人で花火の絵をちぎり絵で創作したり、カレンダー作りをしている人、居室で整理をする人、テレビを見る人等々、それぞれのペースとなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食、利用者と共に朝の買物で買出ししてきた食材やホームの菜園で収穫した野菜を使い、利用者も参加し調理しています。職員は同じ席で同じものを食べながら利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しく和やかな雰囲気を作っています。利用者は配膳や下膳、食器洗いにも活躍しています。食事は利用者のホームでの生活の中で力の発揮や参加、人間関係作りの意味で重要な位置付けとなっています。毎日だけでなく、メニュー選びから調理までの一連の作業を利用者、職員と一緒にいき、一緒に味合っ楽しい食事になるような支援が望まれます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週に3回程度、ゆっくり寛いだ入浴ができています。希望すれば毎日でも入浴可能です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの菜園で野菜の苗植えから水遣り、除草、収穫を楽しむ人、野菜の下ごしらえや味噌汁作り、カレンダー作りや塗り絵、季節に合わせて大きな貼り絵の創作をしたり、新聞を読んだりして楽しんでいる利用者がいます。利用者同士で将棋を指したり、マジックを披露する利用者もいます。ただセンター方式で生活歴を調査し利用者一人ひとりの個性、役割や楽しみごとを把握しながら活かすきれてない部分があります。	○	家族の協力でセンター方式情報シートを使って生活歴を調査し、把握したその人固有の特徴的な役割や楽しみごとを活かすことが求められます。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買出し、週3回の散歩、月1回の外食等、色々な相談と工夫をしながら楽しんでいます。季節毎の行事として初詣や祭り、花見にも出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアは内鍵、エレベーターは鍵なしで問題はありませんが、エレベーターホールから各フロアに通じるドアが内部から電子ロックされていて暗証番号が必要となっています。	○	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族に心理的拘束感を与えないようになるべくドアをロックしないことが求められます。電子ロック操作盤の横に暗証番号を表示し、外出したい利用者が操作し、外出できるような工夫をされてはいいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て消防、避難訓練を近く実施予定ですが、災害対策のマニュアルが作成されていません。食料と水の備蓄については特別な対応はありませんが、冷蔵庫や収納庫の在庫があり、最低限の量は確保しています。	○	災害対策のマニュアルの作成が求められます。非常・災害時のための食料品と水の備蓄について「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めを作成しておくことが望まれます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量について記録をとっています。栄養バランスについては計画作成担当者である看護師がアドバイスしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりには季節の花、観葉植物、生け花が飾られ訪ねやすい雰囲気になっています。リビング兼ダイニングルームは明るくて広い開放的なスペースになっており、一階は菜園を窓越しに見ることができます。壁にはちぎり絵作品やカレンダー、天井にはプロの作った季節感のある切り紙作品がぶら下がっています。ただ食卓以外にソファのような寛げる居場所がなく、花の飾りもなく全体として家庭的で安らぎのある雰囲気となっています。	○	ソファやベンチ、家具、花などを使って工夫し、潤いのある家庭的なスペースにすることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームがベッドと収納クローゼットだけを提供している居室には、利用者が椅子、タンス、飾り棚、装飾品、家族の写真、テレビ、時計、使い慣れた馴染みの古い物や生活用品を持ち込み、利用者が居心地よく過ごせる場所となっています。		